

2025 年度四国支部活動 開催報告

主 催：公益社団法人日本語教育学会
開 催 日：2026 年 2 月 21 日（土）13：00-16：30
会 場：今治明德短期大学
参加人数：46 名（会員 17 名、一般 29 名）

今年度第 3 回目の四国支部活動は今治明德短期大学にて開催し、講演・事例紹介に続いて、参加者が登壇者と直接意見交換を行う形式で実施しました。近年、日本社会では外国人住民の増加が続き、多文化共生は都市部・地方部を問わず大きな課題となっています。こうした状況を踏まえ、四国支部では、地方における多文化共生と日本語教育の現状を共有し、今後の方向性を考える場を設けました。

第 1 部では「多文化共生と日本語教育」をテーマに、広島大学の西口光一氏より、前月 14 日に公表された「外国人との秩序ある共生社会の実現のための有識者会議意見書」をふまえた講演がありました。続いて、四国大学の元木佳江氏から、留学生が社会と関わる自律的な取り組みの事例報告がありました。さらに、愛媛大学の向井留実子氏から、外国人による職場や地域社会での交流の重要性について事例報告がありました。最後に、愛媛大学の高橋志野氏から、地域日本語教室の継承と発展に向けて、行政職員の行動背景にある意識に着目した事例報告がありました。第 2 部では、参加者を 4 つのグループにわけ、各グループで登壇者の先生方と意見交換を行いました。

今回の支部活動は、四国内でも外国人住民の割合が高い今治市で開催したことも意義深く、地域の実情を踏まえた議論を深める機会となりました。また、各地から参加の皆さまとの対話は、地域の多文化共生における課題や今後の方向性を見いだす時間となりました。

今回は参加者 46 名のうち 3 名が四国外からの参加であり、日本語教育従事者をはじめ、行政や企業の関係者、地域ボランティア、大学生など多様な立場の方々にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。参加者の皆さまから寄せられた事後アンケートでは肯定的な評価が多く、今後もこのような場を継続して欲しいという声が多数寄せられました。四国地域における今回のような活動のニーズの高さが改めて確認されたことは、今後の活動を検討するうえで大きな示唆となります。

四国支部活動は今回をもって終了となりますが、これまでの実績や、今回新たにつながることでできた方々との関係、得られた知見や情報などを、今後の四国ならではの取り組みに活かしていければと考える次第です。今回の支部活動は、ご登壇くださった皆さま、今治明德短期大学泉浩徳学長、運営スタッフの皆さまのご協力により実現することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



（報告者：四国支部活動委員 渡辺裕美、塩井実香）